

提出症例（記載要項）

番号	001 から 220 まで（重複不可）	
年齢	歳	
性別	男、女	
施行日	西暦で	
病名	明確に記載のこと	
分類	1. 動脈瘤/2. 脳および脊髄動静脈奇形/3. 血行再建術/4. 硬膜および各種動静脈瘻/5. 頭頸部および脊髄腫瘍/6. その他	
病歴	150～200 字程度を目安とする（十分理解できるように記載すればその限りではありませんが、あまりに簡素な記載では不合格と判定されることがあることに留意してください）	
使用器材 （使用機器が判る ように記載すれば 良い）	ガイディング システム	
	アクセス システム	
	その他	
治療概要	250～500 字程度を目安とする（十分理解できるように記載すればその限りではありませんが、治療内容が理解できない簡素な記載では不合格と判定されることがあることに留意してください）	
合併症および転帰 不良の関係	なし/あり（関係あり）/あり（関係が否定できない）/あり（無関係）	
治療直前 mRS	判定困難例は推測で記載のこと	
転帰 （mRS@30 日）		
申請者		
術者		
術者（かな）		
第 1 助手		
第 1 助手（かな）		
第 2 助手		
第 2 助手（かな）		

提出症例（見本）

番号	001	
年齢	51 歳	
性別	女	
施行日	2011 年 1 月 1 日	
病名	破裂脳動脈瘤（左内頸動脈後交通動脈分岐部）	
分類	1. 動脈瘤	
病歴	2011 年 1 月 1 日午前 6 時頃、突然激しい頭痛を自覚し、救急車を要請した。来院時、WFNS Grade II、H&K Grade III。CT にて massive SAH を確認し、救急部で全身麻酔（気管内挿管）を導入。血管造影にて L-A1A2 junction に最大径 5.5mm の嚢状動脈瘤を確認した。他に R-MCA にも脳動脈瘤が確認されたが、CT 所見から Acom AN の破裂と診断した。（184 字）	
使用器材 （使用機器が判る ように記載すれば 良い）	ガイディング システム	Envoy 6Fr 90cm MPD、4Fr125cm インナーカテーテルと同軸に L-ICA に誘導
	アクセス システム	Excelsior SL10(45°)、Chikai 10 を用いて瘤内に誘導
	その他	万一の破裂に備えて Hyperglide 4/10mm を L-ICA に誘導しておいた。 コイルは、GDC を用いた（概要に記載）
治療概要	6Fr long シースの留置後に全身へパリン化（4,000IU の iv）を行った。Envoy の誘導留置はスムーズであったが、Excelsior SL10 の誘導にやや難渋した。まず GDC10 360regular 5mmx15cm を Framing Coil として留置しようとしたが、最後のループが瘤内に収まりきらないため、GDC10soft 360 5mmx10cm に代えたところ framing が完成した。その内部に GDC10soft 360 4mmx8cm、同 3mmx6cm を packing し、続いて GDC10US 2mmx3cm、2mmx2cm を packing したところで、ExcelsiorSL10 が瘤外に kick back した。造影を行いほぼ完全に塞栓出来ていることを確認した。最終の L-iCAG で、脳動脈瘤の完全塞栓（CO）、主要分枝に閉塞所見のないことを確認した。シースは Angioseal を用いてへパリンリバースなしで抜去した。（406 字）	
合併症および転帰 不良の関係	なし	
治療直前 mRS	0	
転帰（mRS@30 日）	1	

申請者	血管内 太郎
術者	血管内 太郎
術者 (かな)	けっかんない たろう
第1助手	治療 花子
第1助手 (かな)	ちりょう はなこ
第2助手	学会 次郎
第2助手 (かな)	がっかい じろう